

さんま通信

春

厚生中央病院だより 第33号 2013年



新任のご挨拶

呼吸器・乳腺外科部長 岩淵 裕

皆さん、始めまして。

私は、本年4月より当院の呼吸器・乳腺外科に着任しました岩淵 裕と申します。

当科は前任の木下医師の時代より地域の方々大変お世話になったことと思いますが、引き続き継続・発展させていく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

さて、当科の今後の診療内容ですが、呼吸器疾患に関してはこれまで通り肺癌と自然気胸がメインになると思います。胸部レントゲンで異常を指摘されたり、胸痛・呼吸苦等がございましたら、遠慮なくご来院・ご紹介ください。当院呼吸器内科医とも十分に連携をとって診察にあたっていくと考えています。また、乳腺疾患に関しては乳癌がメインになりますが、患者さんの多くは乳房に違和感があったり、乳房痛を訴えるなど様々ですので、可能な限り対応していく方針です。当科では患者さんの不安をなるべく早く解消すべく、マンモグラフィーと超音波検査は受診初日に行い、いち早く病態の把握に努めていこうと考えています。更に、甲状腺疾患に対しても担当いたします。私は、以前に原宿の伊藤病院に常勤として勤務していた時期があり、その経験を生かして当院でも診察を行っていくと考えています。甲状腺癌ばかりでなく、バセドウ病や橋本病の良性疾患も診察します。

以上の疾患群に関して、何か気になることやお聞きになりたい点がございましたら、些細なことでも結構ですからお気軽においで下さい。

私は以前に都立広尾病院に勤務していた時期もあり、広尾周辺や目黒・三田地区には大変親近感を抱いております。再度、この地区の当院に勤務できることを大変嬉しく思っています。それでは、これからよろしくお願いいたします。



目次 contents

- 新任のご挨拶 1
- 最近の低侵襲内視鏡治療について ... 2~3
- 地域健康フェスティバル2013を開催しました ... 4

どうして
さんま通信なの？

目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

最近の低侵襲内視鏡治療について

消化器病センター（内科）

中 村 文 彦

近年、わが国では生活習慣病や悪性腫瘍が増加し続けており、厚生労働省の人口動態統計年報によると平成21年（2009年）の全死因の中で、日本人の主たる死因は、1位悪性新生物、2位心疾患、3位脳血管疾患と報告されています。なかでも悪性新生物は30%を占める死因となっており、悪性新生物の総死亡に関しては、1位気管・気管支および肺、2位胃、3位大腸（結腸と直腸S状結腸移行部および直腸）と上位3位のうち2つを消化管腫瘍が占めています。最近では消化器疾患の分野に限って言えば、単孔式内視鏡外科手術などの低侵襲治療の進歩が目覚ましく、そのような中で病変局所の内視鏡的切除のみで、開腹操作や全身麻酔が不要な早期消化管癌に対する内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術：Endoscopic Submucosal Dissection；ESD）も著しい進歩を遂げています。

この方法は約15年前に国立がん研究センター中央病院にて開発された治療であり、当初は早期胃癌のみに導入されていましたが、近年では食道表在癌や平成24年4月より早期大腸癌に対しても保険導入されるようになりました。本治療は内視鏡をまず経口もしくは経肛門的に挿入し、内視鏡先端部から処置具を出した上で病変のある層の下に局所の粘膜下注射にて剥離すべき余白を作り上げ、同部分を内視鏡の先端から電気メスを出して剥離していく方法です。



図1. ESD施行時の様子
— 近畿ESDライブにて(2012年)—

治療は国立がん研究センター中央病院・消化管内視鏡科
斎藤 豊先生が施行. 介助は中村(右)

この方法はリンパ節転移のリスクが極めて少ない早期の病変に対して適応となるものですが、たとえ大きな病変であっても再発や病理学的評価が困難になるリスクを伴った分割切除を行うことなく、一括切除にて治療する事が可能であり、その治療成績、有効性に関する多くの論文が日本から発信されています（図3）。

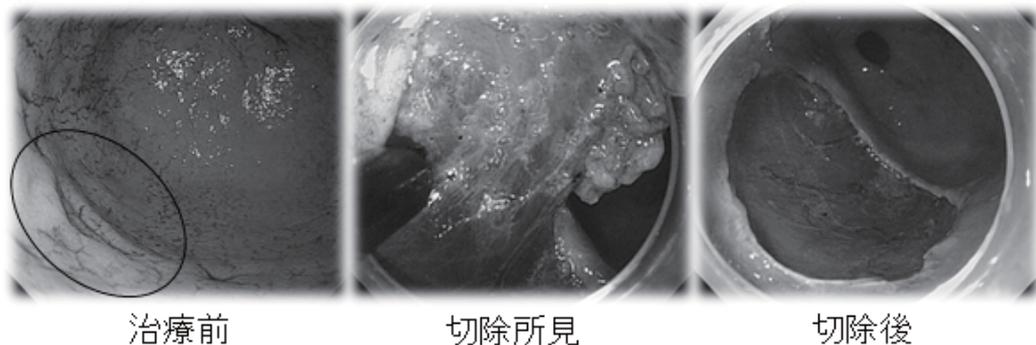


図2. ESD所見(早期胃癌)

当ケースの術後経過は良好で、術後4日目に退院。
病理評価からも治癒切除の結果が得られた。

また治療に伴う合併症（出血や穿孔（消化管壁に穴があくこと））も全国的に見ても、数%程度以下の低頻度なものであり、安全性にも優れています。これに加えて、治療後より歩行は可能で在院日数も短く、低侵襲性にも優れた治療手段とも言えます。

私が国立がん研究センター中央病院に一昨年に赴任していた際、斎藤豊先生や他の内視鏡部の先生方にご指導頂きながら、このESDの低侵襲性、安全性に関してまとめた臨床研究成績を今年米国で開催される国際学会（DDW2013）にて口演発表を行う機会を得ることができました。それだけ世界的にみても現在の医療では有効性は勿論のこと、安全性や低侵襲性にも優れた治療が注目され、そして望まれてきている時代なのだと思います。

現在、当院でも積極的に本治療を導入しており、治療困難な症例に関しては専門施設のエキスパートを招き、当院で治療を行うことも可能としています。

ここで私が強調しておきたいことは、定期的に内視鏡検査や検診を行って頂き、病変が残念ながら存在する場合であっても、その病変をいち早く発見して術後後期合併症や機能障害を起こさない局所治療である内視鏡治療にて病気を治すために、我々医師だけでなく、患者様にも心がけて頂き、病気および治療に関してお互いが理解できることが重要です。当科では数多くの内視鏡検査が行われており、患者さんに苦痛を伴うものとならないよう、希望に応じて積極的に鎮静剤も併用しながら、日々内視鏡診療を行っています。検査を受けたいけど内視鏡検査が怖くて受ける気持ちになれないと思われる方も、当科の医師より十分な説明をさせて頂き、不安を解消できるように相談しながら検査を行いたいと考えておりますので、是非当科への受診を考えてみて下さい。

またこれには近隣施設の先生方のご理解、ご協力も必要と思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

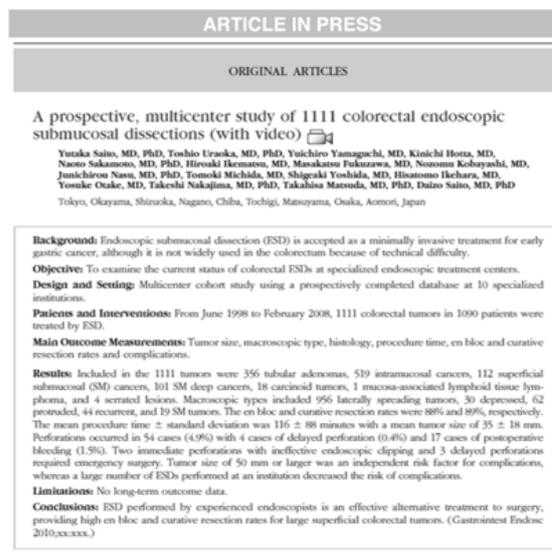


図3. 大腸内視鏡的粘膜炎下層剥離術(ESD)に関する海外論文(例)
(Gastrointestinal endoscopy. 2010)

地域健康フェスティバル2013を開催しました

2月24日（日）に目黒区医師会と共催で地域健康フェスティバルを開催しました。

昨年に引き続き、目黒区の後援をいただき盛況のうちにフェスティバルを終えることができました。

今年も多数の方にお越しいただきましたが、ご希望の催しを受けることができなかった方がおられたため、来年は全ての方が満足していただける様に準備させていただくとともに、皆さんの興味ある企画を検討し楽しんでいただけるようなフェスティバルにしていきますので次回も多くの皆さんのお越しをお待ちしております。



転倒予防体操



なりきりキッズ写真館



計測ツアー（骨密度測定）



健康講話

病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務



総合病院 **厚生中央病院**